

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	彦坂 眞一郎
主な担当科目	室内楽Ⅰ,室内楽Ⅰ①,室内楽Ⅰ②,室内楽Ⅱ,室内楽Ⅱ①,室内楽Ⅱ②,室内楽Ⅲ,室内楽Ⅳ,室内楽Ⅴ,室内楽Ⅵ,室内楽演習Ⅰ,室内楽演習Ⅱ,実技個人レッスン〔器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ③,器楽実技Ⅱ①,器楽実技Ⅱ③、器楽①〕
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	演奏を成し遂げるために必要なことの第一は、考えることではなく、瞬間ごとにすべき行為を集中力を持って行うことである。そのために、授業では奏法の各要素について具体的に認識することに重点を置いた。また、能力の低い学生の問題点の在り処を探り、暗譜型から初見型への感覚の変換を多く試みた。
2023年の教育に関する自己評価	専任2年目となり、各学生の顔や性質などが識別できるようになってきた。また昨年同様に、レッスンや実技系の授業における私の指導は多くの学生に受け入れられ、一人ひとりの進歩に影響を与えているという実感を得ている。欠席や遅刻が多い学生への指導も概ねうまく行ったと感じる。
2023年のFD活動に関する自己評価	本年度はLGBTQに焦点をあてた内容が有意義だった。グループに分かれてのディスカッションではファシリテーターを任せられ、多くの意見が活発に発言され、参加したメンバー一人ひとりに何かしらの認識が生まれたのを感じた。
授業改善のために取り入れた研修内容	上記、LGBTQに対する今までとは少し違う認識が生まれたため、私自身の発言にも多少の変化があった。しかしながら、この問題に対する扱いは、それこそ多様で多層な構造があると感じており、過度に反応するのもまた違うと感じている。今後はサークルの運営、特に合宿のときには配慮が必要だと新たに認識した。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0572 教員名:彦坂眞一郎

1)アンケート結果に対する所見

実技個人レッスン、室内楽、合奏の授業について。
学生は十分に理解し満足しているので、これまでの方針を進めていく。

2)要望への対応・改善方策

室内楽の授業で毎年起こる問題として、レベルの極端に違う学生がチームを組んだ場合、能力のある学生が迷惑するということがある。ある程度の能力差があったとしても、それを克服しつつ自らの演奏を完成させるという学習につながるが、極端な能力差がある場合には、学生たちに大きなストレスを強いることになる。解決策としては、各学生の担当教員と情報を共有し、事前にレベル分けをしておくという方法が考えられる。加えて、事前に学生同士でグループを組んだ上で授業を履修することも、良い結果につながる。

3)今後の課題

学生たちは多くの時間を授業に取られている。特に放課後の時間が短いことが、演奏技術を向上させるための大きな障害となっている。また、サークル活動の時間は、人間関係や役割分担などを経験できることも多く、そもそもアンサンブル能力の向上に役立つが、その時間も足りない。音楽大学の学生のためには、授業時間を減らし、個人練習や室内楽の合わせの時間、サークル活動のための時間を確保することが重要なことだが、状況は改善されていない。

以上